

授業科目	*老年看護学演習				実務家教員担当科目	○	
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	溝部 昌子						
授業概要	<p>高齢者を取り巻く環境、心身の加齢性変化など老年看護学の基礎知識に基づき、治療、リハビリテーション、療養など様々な回復過程にある事例患者の看護過程の展開を通して、高齢者特有の看護問題と看護ケアについて学ぶ。実習室において、高齢者特有の看護技術を体験的に学ぶ。</p> <p>実務家教員として高齢者看護の実務経験のある教員が、高齢者及び病態の理解、高齢者アセスメント、高齢者看護技術の実際について、講義、技術のデモンストレーション、実践の指導にあたる。</p>						
授業形態	講義	授業方法	実習、グループディスカッション、プレゼンテーション、オンデマンド講義				
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>基礎的な看護過程に、対象の加齢性の心身機能の変化や高齢者特有の健康障害や療養上のリスクが考慮されている。完全ではないが、老年看護学的な種々の患者アセスメント方法を活用し、対象の理解に努めている。看護目標や看護方法が一般的な内容にとどまり、対象の意向や環境が十分反映されていない。高齢者看護技術としての下肢血流評価 ABI 測定、排尿アセスメント残尿測定などと看護過程への関連付けが十分でない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢患者のアセスメントで、加齢性の心身変化を考慮して情報を分析できる (DP2-1, 4-2) 2. 対象のからだ・こころ・くらし・かかわり・生きがいを考慮した看護問題を抽出できる (DP2-1, 3-2) 3. 事例患者の看護過程を通して、食事療法、皮膚障害、排尿障害に対する看護ケア計画を立案できる (DP2-1, 3-2) 4. 事例患者の看護過程を通して、安楽を促す看護ケア計画を立案できる (DP3-2, 4-2) 5. 事例患者の看護過程を通して、対象の身体可動性、心肺機能、感覚機能に応じた看護ケアの方法、目標を設定できる (DP3-2, 4-2) 6. 事例患者の看護過程を通して、対象の認知機能、文化的背景を考慮した効果的なコミュニケーションを検討できる (DP3-2, 4-2) 7. 事例患者の看護過程を通して、高齢者の意思決定や意思疎通を支える方法について検討できる (DP3-2, 4-2) 8. 高齢者看護技術を修得することができる (DP3-2, 4-2) 						
理想的レベル	<p>加齢性の心身機能の変化を踏まえ、高齢者特有の健康障害や療養上のリスクを理解し、老年看護学的な種々の患者アセスメント方法を駆使し、対象を理解することができる。看護問題について対象の意向や環境に応じた看護目標の設定を検討することができる。対象の残存機能を活かせる看護方法のバリエーションを複数検討することができる。高齢者看護技術において、下肢血流評価 ABI 測定、排尿アセスメント残尿測定を修得し、看護過程に活用できる。</p>						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合 (数値)				備考		
試験							
小テスト							
レポート							
発表 (口頭、プレゼンテーション)							
レポート外の提出物	90%						

その他		10%									
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21317J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義で示されたアセスメントの結論、看護の方法を基に、自身でアセスメントを展開する ・事例の病態のメカニズム、治療・薬剤を理解するために、資料を検索する ・看護方法を検討するために、資料・文献を活用する 										1	
授業計画											
第1回	1. 老年看護過程の展開、科目ガイダンス 事例提示、パーキンソン病/肺がん 病態、標準治療、標準看護計画、事例に関連した資料検索、文献検討 担当：溝部昌子										
第2回	2. 患者基礎情報の整理 現病歴、併存症、治療歴、リハビリテーション、医師からの説明と患者の理解 生活機能・低栄養リスク・褥瘡リスク・転倒転落リスク評価 病態とそのメカニズム、治療と看護 担当：溝部昌子										
第3回	3. パターン①健康管理 セルフモニタリング、服薬管理、薬物療法と看護 担当：溝部昌子										
第4回	4. パターン②栄養 治療に伴う食事の援助 放射線治療・化学療法を支える食事援助、経静脈経腸栄養、栄養補助食品、頭頸部がん患者の食事援助と口腔ケア 放射線治療・化学療法と皮膚のケア 担当：溝部昌子										
第5回	5. パターン③排泄障害と看護 残尿測定と排尿計画 便秘の観察と緩下剤の使用 担当：溝部昌子										
第6回	6. パターン④活動運動 活動耐性の評価、生活機能の評価と援助 担当：溝部昌子										
第7回	7. 病態看護問題関連図作成 担当：溝部昌子										
第8回	8. パターン⑤睡眠⑥認知知覚と看護 苦痛の評価と安楽促進 意識レベル・苦痛の評価 担当：溝部昌子										

第9回	9. パターン⑦⑧⑨⑩⑪ナラティブに基づく患者の理解 患者及び家族との対話、意思決定支援 高次脳機能障がいの理解 担当：溝部昌子
第10回	10. 高齢者看護技術①【演習】 下肢血流評価 ABI 測定、エコーによる残尿測定、エコーによる大腸観察、義歯の取り扱い 担当：溝部昌子
第11回	11. 高齢者看護技術②【演習】 下肢血流評価 ABI 測定、エコーによる残尿測定、エコーによる大腸観察、義歯の取り扱い 担当：溝部昌子
第12回	12. 症例報告の方法 脳出血・開頭血腫除去術と看護 担当：溝部昌子
第13回	13. 看護診断名リスト、看護計画 看護診断と優先順位、看護計画 EP はグラレコ制作 担当：溝部昌子
第14回	14. 豊かな生を支える看護 タクティールケア、Twiddle Muff 担当：溝部昌子
第15回	15. 老年看護の果たす役割 文献検討と事例についての発表 担当：溝部昌子
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践 MC メディカ出版 ・生活機能から見た老年看護過程第4版 医学書院
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・生活機能から見た老年看護過程 第4版 医学書院 ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 MC メディカ出版 ・看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア 南江堂 ・ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼・耳鼻咽喉・歯・口腔/皮膚 MC メディカ出版 ・ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑦ 運動器 MC メディカ出版 ・役立つ！使える！看護のエコー 真田弘美ら 照林社
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題12回分90%、A-B-C3 段階評価を付し、返却します ・その他（発表・態度）10% 参加や提出回数をカウントし、未提出、未参加については個別に確認します
学生へのメッセージ・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論、老年看護方法論での知識を踏まえて看護過程を展開します ・老年看護過程アセスメントガイド、教科書、配布資料を十分に活用してください ・書籍、雑誌、インターネット、診療ガイドライン、文献など新しい知見、情報を検索し、活用するスキルも同時に必要です ・老年看護学演習では、高齢者の加齢性の心身変化と疾病や病態との関連を理解し、高齢者特有のアセスメント技術と看護技術を駆使して看護過程を展開するため、専門基礎科目、基礎看護学、成人看護学の知識・技術の応用が求められます。

